

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1490700018
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム銀らんの丘
訪問調査日	平成20年11月11日
評価確定日	平成20年12月27日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1490700018
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム銀らんの丘
所在地	235-0013 横浜市磯子区広地町11-41 (電話) 045-750-5545

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F
訪問調査日	平成20年11月11日
評価確定日	平成20年12月27日

## 【情報提供票より】(平成20年11月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	13 人
利用定員数計	18 人
常勤 8人, 非常勤 5 人, 常勤換算 8.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	81,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 450,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1100 円			

### (4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 81.3 歳	最低	68 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	みずほ診療所
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は名を地域に定着させている秀峰会、テーマは「天に星、地に花、人に愛」でこれに沿った確固たる理念があり、これを勿論、事務所の目立つ所に掲示するとともに、パンフレット、名刺においても記載、一貫した介護ポリシーで関係事業所全体に展開している。秀峰会は事業部制を敷き、グループホームを1つの事業部として情報の流れをスムーズにしている。事業部本部を横浜に終結し、横の連携を強化するとともに人材の活用面にも力を入れている。JR根岸駅からバスで7~8分の住宅地の中にある。しゃれた個人住宅の多い地域ではあるが、隣がマンションであり建物の違和感は全く無い。名前の由来はこの地域に生息した野生の草花「銀らん」の名前を残す意味で名づけられた。1Fがデイサービス、2F,3Fが2ユニットのグループホームとなっている。安全な生活を保ちつつ自由な生活が出来るバランスのとれたホームを目指している。往診医の確保とその看護師との契約で医療連携体制を確立している。居室担当を決め、ケアカンファレンスにポイントの情報提供を行い、前回ケア計画の問題点抽出→計画変更のポイント確認→次期ケア計画への反映・改善策の策定のサイクルをまわしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>今回はテーマを地域とどう取り組むかとし、具体的には今年には地域に出て行こう、次にはここに来て頂くをテーマとした。運営推進会議を活用し、自治会では公園の植樹祭への参加、滝頭地区の青少年展示会への作品出展、滝頭コミュニティイベント(落語、音楽)へ招待を受け、地域ケアプラザ・ケアマネの知り合いを通じて利用者の作った雑巾の提供など具体的な地域との繋がりが出来つつある。</p>
	<p><b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>今回の自己評価については、フレッシュな目でホームを見てもらう観点から新入社員、転入職員に記入してもらうことにより、日常生活の中でまだ出来ることがあり、発見できるのではないかと期待して展開してみた。それを管理者が取りまとめた。結果はまだ出ていないが、もっと沢山やれることがあると云う目で今後も話し合いを継続して行きたいと考えている。</p>
重点項目②	<p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b></p> <p>運営推進会議は平成19年7月18日に第1回を開催して以来2~3ヶ月に1回づつコンスタントに実施して来ている。メンバーは自治会長、老人クラブ会長、地域包括支援センターから保健師の方、ご家族が各ユニット1名づつ、それにホームの関係者である。町内会長さんから老人クラブ会長か民生委員のいずれかと問われ、老人クラブ会長に来て頂いた。町内からは少し広域の岡村東部自治会長さんが参加してくれているので、例えば隣町の岩瀬地区の盆おどりに招待を受けるなど地域に広がりが出ている。民生委員の方は3名が委員で全員若しくは交互に出席して頂き、アドバイスを頂いている。</p>
	<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b></p> <p>ご家族については、毎月、定期的に近況報告のお手紙を居室担当からお送りしている。また、来訪時には出来るだけ情報を提供し、ご自身が作られた手工芸品(フラワーアレンジメント、トルペイント、俳画)などを見て頂くなど努めている。利用者さんが少しでも自由に暮らして頂けるよう、ご家族とも相談し、ご理解を頂き、支援している。利用者の話しや様子からご家族は良くしてもらっていると分かるのお話しも頂いている。</p>
重点項目③	<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b></p> <p>ボランティア関連では絵手紙、習字、フラワーアレンジメント。自治会関係では夏祭り、催し物への招待。ホームの夏祭りへはご案内に周り、防災訓練についてもご近所にご案内。食事は外食企業に頼らず独自メニューを近隣商店を活用して実施。運営推進会議にこれから3ヶ月の予定をお知らせすることで、七夕の竹は運営推進会議の委員が自宅の竹を切って頂いたり、理美容の利用と協力。公園の植樹祭にも参加させてもらうなど、地域との密着化が進められつつある。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の下、地域の中で「共に暮らす」ことを掲げ、近隣への買い物や、地域行事に参加してもらうことにより、その地域に根ざした生活ができるよう支援している。地域との関わりも昨年と比較し充実してきた。次年度はこちらからは支援できるかわりを深めていきたい。	○	今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に読み合わせを行うほか、全体ミーティング・カンファレンスを行う際、支援の指針となるようにし、職員に理念の持つ意味を浸透させている。理念について触れる機会を今後も継続し理念の共有を図っていく。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の町内からの夏祭りへのご招待、コミュニティーでの催し物の案内をいただくなど、地域のお仲間としての交流が出来ている。併せて、こちらから夏祭りへのご案内や、町内における防災訓練・婦人会の催しなどにも積極的に参加し、地域の方々と交流をしている。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価については、フレッシュな目でホームを見てもらう観点から新入社員、転入職員に記入してもらうことにより、日常生活の中でまだ出来ることがあり、発見できるのではないかと期待して展開してみた。評価の意義を理解し、取り組んでいきたい点を把握し、日常生活に活かしている。	○	更に新入社員、転入職員を含めた全職員が、より具体的に日常に活かせるように、ミーティング・勉強会で徹底して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ないし3ヶ月ごと会議を開催指し、関係各所の方々より寄せていただいたご意見を運営及び支援に反映させている。民生委員の方は3名が委員で全員若しくは交互に出席して頂いている。会議では議事録による報告を行うと共に、頂いたご意見による改善点などについては口頭での報告を行っている。	○	地域の中でグループホームの位置づけを明確にし、連携できることは何なのか具体的な内容を検討していく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村開催の研修会に積極的に参加し、ホームと良好な関係作りをし、質の向上に繋がる相談やアドバイスを受けられる関係作りを行っている。		今後も継続して実施して行く。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に一度お手紙を郵送し、居室担当よりの近況報告、小遣いの収支、ホーム長よりのお知らせを同封している。特変時は電話にて連絡をとっている。		今後も継続し、ご家族の理解を得られるよう努めると共に、面会に時間の取れないご家族への報告をより充実させていきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族の意見を伺うほか、契約時に苦情窓口のご案内をしている。日ごろ職員は家族が話しやすい雰囲気作りに努めている。		より話しやすい関係づくりに努めると共に、不満苦情があれば阿波速やかに対応したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各職員が納得できる雇用形態の確立はなかなか完結しないが、職務能力の評価基準を設け、管理者は各職員の希望に沿って的確なアドバイスができるよう工夫して行きたい。至らないできていないと思われる離職が続いてしまった。	○	今後も、積極的に取り組んで行きたい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を掲示し積極的に参加を呼びかけ、参加に関しては就業として研修の受講を認めている。必要性に応じ受講義務付ける研修は就業に組み込んで受講を奨めている。		今後も、積極的に取り組んで行きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームブロック会における講習会への参加を呼びかけ、交流を持つようにしている。開所2年となり、地区の同業者との関係も深まってきている。今後は相互訪問などが行えるよう、より関係を構築させていきたい。		今後も、積極的に取り組んで行きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学段階より、数回の季節行事への参加を呼びかけたり、可能であれば体験入所も実施している。本人、ご家族との相談も納得していただけるよう、繰り返し行うよう努めている。時間の許す限り、入所前でも遊びに来ていただける機会を多く作り、徐々に場の雰囲気に馴染めるよう配慮していく。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として尊敬の念を忘れず、共に支えあう関係作りに努めている。食事やお菓子作りの際に教を請うたり、慣わしなど教えていただく事は、とても多い。今後も共に支えあう関係作りに努めていき、ケアの基本姿勢としていきたい。		今後も継続して実施して行く。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動やご本人とのコミュニケーションを大切に、願いや思いに気付ける様努めている。日頃のスタッフミーティングや、カンファレンスのなかで意見を出し合い、ご本人本意の生活ができるよう支援をおこなっている。		今後も職員間で情報を共有しご本人の意向に沿った援助をしていけるように努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回のケースカンファレンスの中で問題点・気づきなど意見を交換し合い、プランを作成している。	○	今後は出来る限りご家族様、本人も参加出来る様なカンファレンスが出来るように努めたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しのほか、必要時は都度ケアプランの見直しをおこない、ご家族にも提示している。日常の細かな変化に関しては、日誌や申し送りで情報を共有し、ケースカンファレンスの際にケアプランの改善などを検討している。	○	今後は出来る限りご家族様、本人も参加出来る様なカンファレンスが出来るように努め、介護計画に反映していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設されているデイサービスでの催しなどに参加している。ご利用者、家族からの要望などには、協力医療機関や法人内の他事業部等との連携で、柔軟にお答えできる支援を心がけている。		今後も継続していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者に対し、月に2回訪問診療を導入している。その他専門医(耳鼻科、皮膚科)への診療が必要な場合は、家族と相談の上その都度、対応している。週に1回訪問歯科診療も導入しており、必要に応じ家族と相談の上、対応している。		往診医・かかりつけ医との連携を更に強化していきたい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を整え、実際の場面では終末期のご利用者のケアにあたり、ご家族、医師、職員が細やかに連絡を取り合い支援に努めることができた。	○	本人の意向を汲むことはもちろん、家族・医師・職員と話し合う機会を設け、強い連携のなかでご利用者を支援していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の「ケアハラスメント防止10項目」を掲げ、言葉がけや対応に活かしている。又、常に振り返りができるように定期的に勉強会を設けている。		今後も継続して留意していく。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や体操など日課として声かけはしているが、強制はしていない。ご利用者のペースを優先できるような雰囲気作りに努めている。		利用者本位であることを心がけていく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備、食事、片付けを行い自ら生活していると実感し、一人ひとりの残存機能を有効に発揮できるように努めている。		今後も出来る限り参加して頂ける様な環境作りに留意していく。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴への誘いは定期的に行い、個人の希望を尊重し、個人に合わせ入浴が楽しめるよう支援を行っている。		好みに応じた環境作りをしていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自発的にされていること、できる力・わかる力を大切に、グループホームでの日常が楽しいものになるよう支援している。 その人のアセスメントを活用し趣味や特技を生かしたアクティビティを行うなどの工夫をしている。		ひとりひとりが日々の生活に楽しみを持ち充実した一日一日をお過ごしいただける様支援していく。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散策を日課として、自由に参加して頂いている。食べ物や衣服のお買い物の希望などがあれば出来る限りお出かけいただける様支援している。ご家族の協力も得ながら、ご利用者が窮屈な思いをせず、よりのびのびと過ごせる環境を作る工夫をして行く。		今後も継続して留意していく。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員は理由なく鍵を掛け、自由を奪うことの弊害を理解している。しかし、安全のためにエレベーターの使用を制限させて頂いているため、ご家族に説明しご理解いただいている。	○	今後も、考え方を全職員が共有していけるよう努めて行きたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	現在、準備段階である。消防署、自治会との連携を取り、早急に、体制を整えたい。	○	早急に、体制を整えたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調管理の一環として、月2回体重測定を行っている。水分量などのチェックは必要に応じて行い、一日2回お茶の時間を設けたり、その合間にもお褒めして水分補給をして頂いている。		今後も継続し見直しを行いながら栄養バランスを考えた献立作りをしていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに掲示板を設け、外出行事の際の写真や、アクティビティで作成した季節の折り紙作品を掲示している。		法人の協力を得ながら、季節感を大切に心地よい環境を提供して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者はこれまで愛用されてきた家具などを持ち込まれている。また入所以降必要と思われるもの本人やご家族と相談しつつそろえている。現在はもともと全室フローリングにベッドが設置されているが、ご利用者の希望により、床に布団敷きなど柔軟に対応していく。		好みに応じた環境作りをしていく。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム銀らんの丘
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	235-0013 横浜市磯子区広地町11-41
記入者名 (管理者)	丹波 淳子
記入日	平成 20年 11月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の下、地域の中で「共に暮らす」ことを掲げ、近隣への買い物や、地域行事に参加してもらうことにより、その地域に根ざした生活ができるよう支援している。	○	地域との関わりも昨年と比較し充実してきた。次年度はこちらからは支援できるかかわりを深めて行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に読み合わせを行うほか、全体ミーティング・カンファレンスを行う際、支援の指針となるようにし、職員に理念の持つ意味を浸透させている。	○	理念について触れる機会を今後も継続し理念の共有を図っていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居希望、見学受け入れのおり、法人理念それに基づく当ホームの方針をお話している。入居に当たっては契約時に詳しく説明し、日々の支援の場で実践している。	○	全てのご家族はむろん、地域の方にもアプローチして行きたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	建物の構造上、中々ホームへ気楽に立ち寄ってもらえる状況にはないが、幼稚園のバスの送迎時にお会いする際は快い挨拶を交わしたり、行事へのお誘いなどを心掛けている。	○	毎朝のゴミ出し時、近隣への散歩の時など、顔を会わせお話などができる機会をより増やして行く。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の町内からの夏祭りへのご招待、コミュニティーでの催し物の案内をいただくなど、地域のお仲間としての交流が来ている。会わせて、こちらから夏祭りへのご案内や、町内における防災訓練・婦人会の催しなどにも積極的に参加し、地域の方々と交流している。	○	今後も充実していきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で、認知症の方への対応について学びたいという要請があり、何らかの形でお役に立てればと検討を行っている。	○	認証介護施設ならでの研修を計画していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、取り組んでいきたい点を把握し、日常生活に活かしている。	○	更に全職員が、より具体的に日常に活かせるように、ミーティング・勉強会で徹底していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ないし4ヶ月ごと会議を開催指し、関係各所の方々より寄せていただいたご意見を運営及び支援に反映させている。会議では議事録による報告を行うと共に、合わせて頂いたご意見による改善点などについては口頭での報告を行っている。	○	地域の中でグループホームの位置づけを明確にし、連携できることは何なのか具体的な内容を検討していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村開催の研修会に積極的に参加し、ホームと良好な関係作りをし、質の向上に繋がる相談やアドバイスを受けられる関係作りを行っている。	○	市町村開催の研修会については参加出来る範囲で積極的に参加していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護事業の研修に参加し、職員に周知させるほか、必要な人には活用できるよう支援をしている。	○	ニーズに応じ、スムーズに活用できるような体制作りをすすめたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は権利擁護事業の研修に参加し、職員に周知させるほか、日々の言葉がけにも職員間で注意し合う関係作りをしている。又ご家族との外出時においては帰居時にはご利用者の変化に気をつけている。	○	職員ひとりひとりがより理解を深め、虐待防止を徹底する。また職員間でフォローできるよう努める。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学・契約・解約共に管理者から繰り返し十分な説明を行い、質問事項や問い合わせに対しては丁寧に対応している。	○	今後も同様に、理解、納得していただけるように努めて行きたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特にそのような機会を作っていないが、カンファレンスや全体会議の中で、ご入居者の意見として取り上げ、サービス向上に反映させている。	○	反映を評価に繋げて行きたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度お手紙を郵送し、居室担当よりの近況報告、小遣いの収支、ホーム長よりのお知らせを同封している。特変時は電話にて連絡をとっている。	○	今後も継続し、ご家族の理解を得られるよう努めると共に、面会に時間の取れないご家族への報告をより充実させていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族の意見を伺うほか、契約時に苦情窓口のご案内をしている。日ごろ職員は家族が話しやすい雰囲気作りに努めている。	○	より話しやすい関係づくりに努めると共に、不満苦情があれば阿波速やかに対応したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを月に一度実施し、業務改善に努めている。日常的なミーティングの場を職員の意見や対案を聞く機会している。	○	更なる改善に役立てていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者の緊急時、急な要望などがあれば、随時話し合いで勤務の調整をしている。	○	職員採用時に理解を得られるように、話しをすすめていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各職員が納得・満足できる雇用形態がなかなか確立できていない為と思われる離職が続いてしまった。	○	職務能力の評価基準を設けたい。管理者は各職員の希望に沿って的確なアドバイスができるよう努める。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
○職員を育てる取り組み		注し内外の研修を想定し積極的に参加を呼びかけ、参加を		

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修を掲示し積極的に参加を呼びかけ、参加に関しては就業として研修の受講を認めている。必要性に応じ受講義務付ける研修は就業に組み込んで受講を奨めている。</p>	○	<p>今後も、積極的に取り組んで行きたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームブロック会における講習会への参加を呼びかけ、交流を持つようにしている。</p>	○	<p>開所2年となり、地区の同業者との関係も深まってきている。今後は相互訪問などが行えるよう、より関係を構築させていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>グループホーム事業部の取り組みとして、「休憩時間を確保する」という目標掲げ実践してきた。</p>	○	<p>職員一人ひとりと話しをできる機会を設け、より良いメンタルケアを行えるようにしていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員は各自目標設定を行い、年に2度の管理者との面接で反省、見直しを行っている。積極的な取り組みや勤務態度は評価して、モチベーションを高く勤務できるように努めている。</p>	○	<p>引き続き職員個々の状況を把握し、適切な評価にむすびつけられるよう努力したい。</p>

## Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご入居の相談を受けた際には、必ずご本人との面談を行い、直接お話しを伺い入居後の援助に活かしている。</p>	○	<p>ご本人の求めているもの、必要とされているものをより把握できるよう、お話しを伺う機会を増やしたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談の段階より、ご家族の苦慮、不安、疑問など丁寧にお話しを伺い理解する。また、その中からもご利用者のニーズを汲み取れるものと考え、大切に受け止める。</p>	○	<p>今後もより真摯に受け止めたい。</p>
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>その方の問題点やニーズをよく聞き、よりその方にあったサービスを提供できるよう、担当ケアマネジャーとの連携をとりつつ広い視野での見極めをおこなっている。</p>	○	<p>各職員が相談援助をできるようにスキルアップを行うと共に、職員間でも様々な目線から検討できるようにしていきたい。</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学段階より、数回の季節行事への参加を呼びかけたり、可能であれば体験入所も実施している。 本人、ご家族との相談も納得していただけるよう、繰り返し行うよう努めている。	○	時間の許す限り、入所前でも遊びに来ていただける機会を多く作り、徐々に場の雰囲気に馴染めるよう配慮していきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として尊敬の念を忘れず、共に支えあう関係作りに努めている。食事やお菓子作りに際して教えるを請うたり、慣わしなど教えていただく事は、とても多い。	○	今後も共に支えあう関係作りに努めていき、ケアの基本姿勢としていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事のお誘いをはじめ日々の支援について相談し連絡を取り、ご本人にとって、より良い支援ができるように努めている。	○	共にご本人を支える良い関係を継続していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者とご家族の関係や事情を十分に理解し、良い関係が保たれるよう支援している。	○	今後もご家族へのケアを継続させていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の馴染みの方が来所された際には、暖かくお迎えし、季節行事への参加のお声かけや、その日のアクティビティに参加して頂くことで、グループホームにも親しんでいただけるよう働きかけている。	○	親しみ・開放感のあるグループホームをつくりあげていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士の相性なども念頭に入れつつ、お互いが楽しめるような働きかけをしている。またトラブルを未然に防げるように配慮している。	○	更に、ご利用者の力を出し合い、支えあえるような環境づくりに努めていきたい。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去されたかたから電話きたり、掛けたりされていることがある。	○	ご利用者同士のつながりも大切にしたい。

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動やご本人とのコミュニケーションを大切にし、願いや思いに気付ける様努めている。日頃のスタッフミーティングや、カンファレンスのなかで意見を出し合い、ご本人本意の生活ができるよう支援をおこなっている。	○	今後も職員間で情報を共有しご本人の意向に沿った援助をしていけるように努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い、ご家族や担当ケアマネージャーからより詳しくご本人の生活歴やバックグラウンドの情報収集を行う努力をしている。	○	今後ご利用者の情報把握に努めそれをもとに援助できるようにしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りでは、ご利用者の日々の変化や、気づきに重点を置きスタッフ間で状況を把握できているように努めている。時には日頃ご利用者が敬遠されているような事にもチャレンジしていただけるような機会を作っている。	○	先入観にとらわれないケアを行なっていきたい。

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回のケースカンファレンスの中で問題点・気づきなど意見を交換し合い、プランを作成している。	○	今後は出来る限りご家族様、本人も参加出来る様なカンファレンスが出来るように努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しのほか、必要時は都度ケアプランの見直しをおこない、ご家族にも提示している。日常の細かな変化に関しては、日誌や申し送りで情報を共有し、ケースカンファレンスの際にケアプランの改善などを検討している。	○	今後は出来る限りご家族様、本人も参加出来る様なカンファレンスが出来るように努め、介護計画に反映していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってご利用者にアプローチしその結果を個別記録に残すようにしている。また、申し送りの中でも見直しを行い改善点があれば改善していくようにしている。	○	ケアの状況を職員がより把握しやすいよう工夫したい。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設されているデイサービスでの催しなどに参加している。ご利用者、家族からの要望などには、協力医療機関や法人内の他事業部等との連携で、柔軟にお答えできる支援を心がけている。	○	今後も継続していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のかたや、ご家族のかたにボランティアに来ていただき、作品作りやコンサートなどを楽しんでいただいている。また地域の文化祭に参加いただき、ご利用者が制作した作品を展示して頂く機会を作っている。	○	今後も継続していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内では多岐にわたったサービスを提供できる体制になっており、また、法人外サービスも随時情報提供できるように体制を整えている。	○	サービスの幅を広げるために、他事業所との関わりを増やしより情報収集に努めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での関係のほか、お互いの情報の交換を行っている。	○	今後も積極的に関わりを持ち、ご利用者にとってよりよく暮らしていける情報を提供していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	全利用者に対し、月に2回訪問診療を導入している。その他専門医(耳鼻科、皮膚科)への診療が必要な場合は、家族と相談の上その都度、対応している。週に1回訪問歯科診療も導入しており、必要に応じ家族と相談の上、対応している。	○	往診医・かかりつけ医との連携を更に強化していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談できる特定の専門医はいないが、医療連携をとっている医師に紹介状だして頂き、精神科のある病院のMSWと相談できる体制をとり、ご利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	○	認知症専門医による指導を受ける機会を設けていきたい。
	○看護職との協働			



45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携が始まり、月2回の訪問診療にともについてこれる看護師に隔週で訪看にも来ていただき、相談しながらご利用者の健康管理にあたっている。また、特変時にはすぐに相談できるようホットラインを設けている。	○	今後も継続していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には経過等を含め介護サマリーを送り、退院時には看護サマリーを受け取り継続したケアができるよう努めている。協力医療機関にご利用者の状態を随時伝えることで、的確なアドバイスを頂いている。	○	今後も継続していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を整え、実際の場面では終末期のご利用者のケアにあたり、ご家族、医師、職員が細やかに連絡を取り合い支援に努めることができた。	○	本人の意向を汲むことはもちろん、家族・医師・職員と話し合う機会を設け、強い連携のなかでご利用者を支援していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族を交え協力医療機関との連携の下、ご本人の様子などを敵確認に伝えるように支援している。状態の変化などについても、随時電話にて相談するようにしている。	○	今後の変化に備えての検討を行っていききたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居の際には、これまでの生活の様子をサマリーとしてまとめ、転居後も必要があれば情報提供に努めている。	○	転居先のスタッフと事前面談などをおこなう機会を設けていきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の「ケアハラスメント防止10項目」を掲げ、言葉かけや対応に活かしている。又、常に振り返りができるように定期的に勉強会を設けている。	○	留意していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者の言葉を常に傾聴することを第一とし、いろいろな方向からその方が納得してくださるよう支援している。	○	継続し支援していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や体操など日課として声かけはしているが、強制はしていない。ご利用者のペースを優先できるような雰囲気作りに努めている。	○	利用者本位であることを心がけていく。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理容を招いていて、希望があれば利用していただいている。 また、近隣の理・美容室も気軽にご利用いただいている。	○	行き付けの店など、ご家族の協力も得ながら、ご利用者の希望がかなうようにしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備、食事、片付けを行い自ら生活していると実感し、一人ひとりの残存機能を有効に発揮できるように努めている。	○	今後も出来る限り参加して頂ける様な環境作りに留意していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物については、コーヒーが好きな方、冷たいものが好きな方など、状況に合わせて楽しめるようにしている。夏祭り等、行事の際は、適度に飲酒を楽しまれている。	○	晩酌を好まれる方がいる際には配慮していく。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	清潔を保つ自尊心への配慮を大切に考え支援している。排泄記録より状況を観察し、変化のある場合は、医師に相談し疾病への早期発見に努めている。	○	努めていく。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴への誘いは定期的に行い、個人の希望を尊重し、個人に合わせて入浴が楽しめるよう支援を行っている。	○	好みに応じた環境作りをしていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間よく眠れるように一日の生活リズムをつくり、適度に休息を入れ、活動できるように支援している。	○	睡眠は基本でありとても大事な事であるので今後も留意していく。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自発的にされていること、できる力・わかる力を大切に、グループホームでの日常が楽しいものになるよう支援している。 その人のアセスメントを活用し趣味や特技を生かしたアクティビティを行うなどの工夫をしている。	○	ひとりひとりが日々の生活に楽しみを持ち充実した一日一日をお過ごしいただける様支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の状態把握を行ったうえで、ご自分のお財布を持っていただいているが、多くの場合は各個人の買い物や、外出を行う体制で好みの品を買いに出かけたりしている。	○	ご家族の理解の下、ご自身で自由にできる金銭額を設定していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散策を日課として、自由に参加して頂いている。 食べ物や衣服の買い物希望などがあれば出来る限りお出かけいただける様支援している。	○	遠出や近隣への外出もまだまだ完全に自由に、とまではできていない。ご家族の協力も得ながら、ご利用者が窮屈な思いをせず、よりのびのびと過ごせる環境を作る。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日々の中で汲み取れる、ご本人の希望などをご家族にお伝えすることで、外出の機会を機会を作って頂けるように努めている。	○	個別に応じたケアも大切だと考えているので今後も個別に応じたケアをしていく。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの制限が無い限り、ご希望のある時に連絡したり、お手紙を書いたりできるよう支援している。 また、職員がご家族に連絡をとる際にお話しされるか伺うこともある。	○	ご希望時にはご本人様の意向を出来るだけ尊重していく。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご本人の馴染みの方々が来所された際は、居室でゆっくり過ごされたり、他入居者様も交えフロアで談話されたり、一緒にアクティビティに参加して頂いたりすることもある。	○	今後も来所しやすい環境作りをしていく。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ご利用者の様子を常に意識することで、拘束の必要の無いケアを実践している。また身体拘束の及ぼす影響を全職員が正しく理解できるよう、上司より説明をうけている。	○	安全に留意し支援を行う。 定期的に講習を開くなど、理解を深めたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員は理由なく鍵を掛け、自由を奪うことの弊害を理解している。しかし、安全のためにエレベーターの使用を制限させて頂いているため、ご家族に説明しご理解いただいている。	○	今後も、考え方を全職員が共有していけるよう努めて行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	お茶やアクティビティへのお誘いなどさりげなく、様子を伺わせて頂いたり、ご利用者の側に寄り添い一緒に過ごさせていただく事で日々の状態の変化など見守らせていただいている。	○	常に、周囲を意識し、事故のないよう努めたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の状態を見つつ、危険と判断されるものは安易に手に届く所には置いていない。必要な時はいつでも使えるように声を掛けていただくよう、ご本人と相談し、見守りをおこなっている。	○	ご利用者が不便だと感じないよう支援の方法に工夫していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個別の注意点はケアプランやカンファレンスのなかで情報共有している。また些細なことでも気付いたことがあれば、日誌・ヒヤリハットを活用し職員全員で注意すべきポイントを把握できるよう努めている。	○	今後も続けていく。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	現段階ではまだ一部の職員ではあるが、講習会などに参加している。また、全体ミーティングなどでその内容を共有できるよう発表を行っている。	○	全職員が緊急時対応の知識を身につけ、実践できるよう備えたい。また定期的に訓練を行える機会をつくりたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	現在、準備段階である。	○	早急に、体制を整えたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご利用者各々に起こり得るリスクについてご家族と話し合い、理解を深める。そのなかで職員は出来る限り、ご利用者がよりその方らしく生活できるよう支援していきたい。	○	ご利用者各々に起こり得るリスクについてご家族と話し合い、理解を深める。そのなかで職員は出来る限り、ご利用者がよりその方らしく生活できるよう支援していきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ご利用者の個人記録には、日々の変化や細かな気付きを記録し、職員全体で情報を共有できるよう申し送りを行い、経過観察を行っている。	○	医療連携体制をとっているので今後も活用し体調管理に努める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ご利用者ごとに処方箋がまとめた『お薬ファイル』がいつでも確認できる場所においてある。職員はご利用者の症状や、服薬の内容、注意点を理解できている。	○	常に確認し行っていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ご利用者の排便状況を記録をとることで把握し、各々にあった対策を検討している。	○	今後も食生活と適度な運動をこころがけ援助していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご利用者の状態に応じて誘導を行い、介助している。	○	歯科往診の際、定期的に皆様の検診をおこないたい。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調管理の一環として、月2回体重測定を行っている。水分量などのチェックは必要に応じて行い、一日2回お茶の時間を設けたり、その合間にもお奨めして水分補給をして頂いている。	○	今後も継続し見直しを行いながら栄養バランスを考えた献立作りをしていく。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策指導者研修に参加し、事業所内で研修を行うなどし感染症についての知識の周知を図っている。	○	感染症予防は日頃より行っており今後も同様に続けていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は原則当日に調達しており、台所・調理器具も菌の繁殖が考えられる箇所は毎晩消毒を行っている。	○	今後も食中毒の予防を徹底し衛生管理に努める。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階がデイサービス、2・3階がグループホームとなっていてエレベータを使用している為、開放的とまではいかないが、デイサービスの職員の方々にもお客様へのご案内を協力してもらい、不便のないようにしている。	○	限られたハードの中で、親しみやすく
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに掲示板を設け、外出行事の際の写真や、アクティビティで作成した季節の折り紙作品を掲示しています。	○	法人の協力を得ながら、季節感を大切に心地よい環境を提供していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・フロアと一間になっているが、ご利用者はおのおの適度な距離感で思い思い過ごされている様子が見受けられる。	○	フロア全体を一望できる現在の環境を活かしつつも、共有空間に”少しプライベート”な空間があってもいいのではと思う。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者はこれまで愛用されてきた家具などを持ち込まれている。また入所以降必要と思われるもの本人やご家族と相談しつつそろえている。	○	現在はもともと全室フローリングにベッドが設置されているが、ご利用者の希望により、床に布団敷きなど柔軟に対応したい。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>フロアに温・湿度計を設置し、ご利用者の意見を取り入れつつ空調管理を行なっている。</p>	○	<p>こまめな管理を行うようにしていく。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ベッドのサイドレールなど一見安全の為の用具が使用方法によっては危険を伴うことをよく熟知し、安全に使用していただけるよう気をつけている。 全室フローリングなので、立ち上がりが不安な場合は滑り止めマットを使用している。</p>	○	<p>身体機能にそぐう自立した生活を送っていただくためにフロアに手すりを設置するなど環境の整備を行いたい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人ひとり必要とされる支援はどのような点であるのかを見極め、出来る力をいかに引き出せるか話し合い、日々支援の原点としている。</p>	○	<p>お一人お一人「分かる力」や、混乱してしまう場面の把握により、自立した生活が続けられる環境作りを工夫していきたい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>花壇を利用し野菜を育て、手入れ・水遣り・収穫など楽しんでいただいた。</p>	○	<p>更に有効に活用する工夫を行っていきたい。</p>

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設の構造上、地域の方がGHには訪問しにくい点があるが、ホームの行事には地域の方をお招きしたり、お手伝いいただいたりしている。近隣のコミュニティハウスを利用したり、近隣の公園へ出かけたりし、地域にこちらから馴染む努力をし、小さなお子さんとの触れ合いをもっている。夏にはお隣の町内から盆踊りにご招待頂き、近所の2施設の方との交流も持つことが出来ました。

また、ホーム内の行事も季節ごとの行事の充実を図るほか、内容も好みのものを選択して頂く方法を取るなど、個人の意思を尊重する支援に重点を置いています。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム銀らんの丘
(ユニット名)	3F
所在地 (県・市町村名)	235-0013 横浜市磯子区広地町11-41
記入者名 (管理者)	丹波 淳子
記入日	平成 20年 11月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域との関わりも昨年と比較し充実してきた。次年度はこちらからは支援できるかかわりを深めて行きたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念について触れる機会を今後も継続し理念の共有を図っていく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	全てのご家族はむろん、地域の方にもアプローチして行きたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	毎朝のゴミ出し時、近隣への散歩の時など、顔を会わせお話などができる機会をより増やして行く。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後も充実していきたい。
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で、認知症の方への対応について学びたいという要請があり、何らかの形でお役に立てればと検討を行っている。	○	認証介護施設ならでの研修を計画していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、取り組んでいきたい点を把握し、日常生活に活かしている。	○	更に全職員が、より具体的に日常に活かせるように、ミーティング・勉強会で徹底していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ないし4ヶ月ごと会議を開催指し、関係各所の方々より寄せていただいたご意見を運営及び支援に反映させている。会議では議事録による報告を行うと共に、合わせて頂いたご意見による改善点などについては口頭での報告を行っている。	○	地域の中でグループホームの位置づけを明確にし、連携できることは何なのか具体的な内容を検討していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村開催の研修会に積極的に参加し、ホームと良好な関係作りをし、質の向上に繋がる相談やアドバイスを受けられる関係作りを行っている。	○	市町村開催の研修会については参加出来る範囲で積極的に参加していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護事業の研修に参加し、職員に周知させるほか、必要な人には活用できるよう支援をしている。	○	ニーズに応じ、スムーズに活用できるような体制作りをすすめたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は権利擁護事業の研修に参加し、職員に周知させるほか、日々の言葉がけにも職員間で注意し合う関係作りをしている。又ご家族との外出時においては帰居時にはご利用者の変化に気をつけている。	○	職員ひとりひとりがより理解を深め、虐待防止を徹底する。また職員間でフォローできるよう努める。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学・契約・解約共に管理者から繰り返し十分な説明を行い、質問事項や問い合わせに対しては丁寧に対応している。	○	今後も同様に、理解、納得していただけるように努めて行きたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特にそのような機会を作っていないが、カンファレンスや全体会議の中で、ご入居者の意見として取り上げ、サービス向上に反映させている。	○	反映を評価に繋げて行きたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度お手紙を郵送し、居室担当よりの近況報告、小遣いの収支、ホーム長よりのお知らせを同封している。特変時は電話にて連絡をとっている。	○	今後も継続し、ご家族の理解を得られるよう努めると共に、面会に時間の取れないご家族への報告をより充実させていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族の意見を伺うほか、契約時に苦情窓口のご案内をしている。日ごろ職員は家族が話しやすい雰囲気作りに努めている。	○	より話しやすい関係づくりに努めると共に、不満苦情があれば阿波速やかに対応したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを月に一度実施し、業務改善に努めている。日常的なミーティングの場を職員の意見や対案を聞く機会している。	○	更なる改善に役立てていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者の緊急時、急な要望などがあれば、随時話し合いで勤務の調整をしている。	○	職員採用時に理解を得られるように、話しをすすめていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各職員が納得・満足できる雇用形態がなかなか確立できていない為と思われる離職が続いてしまった。	○	職務能力の評価基準を設けたい。管理者は各職員の希望に沿って的確なアドバイスができるよう努める。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	注し内外の研修を想定し積極的に参加を呼びかけ、参加を		

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修を掲示し積極的に参加を呼びかけ、参加に関しては就業として研修の受講を認めている。必要性に応じ受講義務付ける研修は就業に組み込んで受講を奨めている。</p>	○	<p>今後も、積極的に取り組んで行きたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームブロック会における講習会への参加を呼びかけ、交流を持つようにしている。</p>	○	<p>開所2年となり、地区の同業者との関係も深まってきている。今後は相互訪問などが行えるよう、より関係を構築させていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>グループホーム事業部の取り組みとして、「休憩時間を確保する」という目標掲げ実践してきた。</p>	○	<p>職員一人ひとりと話しをできる機会を設け、より良いメンタルケアを行えるようにしていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員は各自目標設定を行い、年に2度の管理者との面接で反省、見直しを行っている。積極的な取り組みや勤務態度は評価して、モチベーションを高く勤務できるように努めている。</p>	○	<p>引き続き職員個々の状況を把握し、適切な評価にむすびつけられるよう努力したい。</p>

## Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご入居の相談を受けた際には、必ずご本人との面談を行い、直接お話しを伺い入居後の援助に活かしている。</p>	○	<p>ご本人の求めているもの、必要とされているものをより把握できるよう、お話しを伺う機会を増やしたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談の段階より、ご家族の苦慮、不安、疑問など丁寧にお話しを伺い理解する。また、その中からもご利用者のニーズを汲み取れるものと考え、大切に受け止める。</p>	○	<p>今後もより真摯に受け止めたい。</p>
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>その方の問題点やニーズをよく聞き、よりその方にあったサービスを提供できるよう、担当ケアマネージャーとの連携をとりつつ広い視野での見極めをおこなっている。</p>	○	<p>各職員が相談援助をできるようにスキルアップを行うと共に、職員間でも様々な目線から検討できるようにしていきたい。</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学段階より、数回の季節行事への参加を呼びかけたり、可能であれば体験入所も実施している。 本人、ご家族との相談も納得していただけるよう、繰り返し行うよう努めている。	○	時間の許す限り、入所前でも遊びに来ていただける機会を多く作り、徐々に場の雰囲気に馴染めるよう配慮していきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として尊敬の念を忘れず、共に支えあう関係作りに努めている。食事やお菓子作りの際に教えを請うたり、慣わしなど教えていただく事は、とても多い。	○	今後も共に支えあう関係作りに努めていき、ケアの基本姿勢としていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事のお誘いをはじめ日々の支援について相談し連絡を取り、ご本人にとって、より良い支援ができるように努めている。	○	共にご本人を支える良い関係を継続していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者とご家族の関係や事情を十分に理解し、良い関係が保たれるよう支援している。	○	今後もご家族へのケアを継続させていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の馴染みの方が来所された際には、暖かくお迎えし、季節行事への参加のお声かけや、その日のアクティビティに参加して頂くことで、グループホームにも親しんでいただけるよう働きかけている。	○	親しみ・開放感のあるグループホームをつくりあげていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士の相性なども念頭に入れつつ、お互いが楽しめるような働きかけをしている。またトラブルを未然に防げるように配慮している。	○	更に、ご利用者の力を出し合い、支えあえるような環境づくりに努めていきたい。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去されたかたから電話きたり、掛けたりされていることがある。	○	ご利用者同士のつながりも大切にしたい。

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動やご本人とのコミュニケーションを大切にし、願いや思いに気付ける様努めている。日頃のスタッフミーティングや、カンファレンスのなかで意見を出し合い、ご本人本意の生活ができるよう支援をおこなっている。	○	今後も職員間で情報を共有しご本人の意向に沿った援助をしていけるように努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い、ご家族や担当ケアマネージャーからより詳しくご本人の生活歴やバックグラウンドの情報収集を行う努力をしている。	○	今後ご利用者の情報把握に努めそれをもとに援助できるようにしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りでは、ご利用者の日々の変化や、気づきに重点を置きスタッフ間で状況を把握できているように努めている。時には日頃ご利用者が敬遠されているような事にもチャレンジしていただけるような機会を作っている。	○	先入観にとらわれないケアを行なっていきたい。

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回のケースカンファレンスの中で問題点・気づきなど意見を交換し合い、プランを作成している。	○	今後は出来る限りご家族様、本人も参加出来る様なカンファレンスが出来るように努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しのほか、必要時は都度ケアプランの見直しをおこない、ご家族にも提示している。日常の細かな変化に関しては、日誌や申し送りで情報を共有し、ケースカンファレンスの際にケアプランの改善などを検討している。	○	今後は出来る限りご家族様、本人も参加出来る様なカンファレンスが出来るように努め、介護計画に反映していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってご利用者にアプローチしその結果を個別記録に残すようにしている。また、申し送りの中でも見直しを行い改善点があれば改善していくようにしている。	○	ケアの状況を職員がより把握しやすいよう工夫したい。



3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設されているデイサービスでの催しなどに参加している。ご利用者、家族からの要望などには、協力医療機関や法人内の他事業部等との連携で、柔軟にお答えできる支援を心がけている。	○	今後も継続していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のかたや、ご家族のかたにボランティアに来ていただき、作品作りやコンサートなどを楽しんでいただいている。また地域の文化祭に参加いただき、ご利用者が制作した作品を展示して頂く機会を作っている。	○	今後も継続していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内では多岐にわたったサービスを提供できる体制になっており、また、法人外サービスも随時情報提供できるように体制を整えている。	○	サービスの幅を広げるために、他事業所との関わりを増やしより情報収集に努めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での関係のほか、お互いの情報の交換を行っている。	○	今後も積極的に関わりを持ち、ご利用者にとってよりよく暮らしていける情報を提供していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者に対し、月に2回訪問診療を導入している。その他専門医(耳鼻科、皮膚科)への診療が必要な場合は、家族と相談の上その都度、対応している。週に1回訪問歯科診療も導入しており、必要に応じ家族と相談の上、対応している。	○	往診医・かかりつけ医との連携を更に強化していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談できる特定の専門医はいないが、医療連携をとっている医師に紹介状だして頂き、精神科のある病院のMSWと相談できる体制をとり、ご利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	○	認知症専門医による指導を受ける機会を設けていきたい。
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携が始まり、月2回の訪問診療にともについてこれる看護師に隔週で訪看にも来ていただき、相談しながらご利用者の健康管理にあたっている。また、特変時にはすぐに相談できるようホットラインを設けている。	○	今後も継続していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には経過等を含め介護サマリーを送り、退院時には看護サマリーを受け取り継続したケアができるよう努めている。協力医療機関にご利用者の状態を随時伝えることで、的確なアドバイスを頂いている。	○	今後も継続していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を整え、実際の場面では終末期のご利用者のケアにあたり、ご家族、医師、職員が細やかに連絡を取り合い支援に努めることができた。	○	本人の意向を汲むことはもちろん、家族・医師・職員と話し合う機会を設け、強い連携のなかでご利用者を支援していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族を交え協力医療機関との連携の下、ご本人の様子などを敵確認に伝えるように支援している。状態の変化などについても、随時電話にて相談するようにしている。	○	今後の変化に備えての検討を行っていききたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居の際には、これまでの生活の様子をサマリーとしてまとめ、転居後も必要があれば情報提供に努めている。	○	転居先のスタッフと事前面談などをおこなう機会を設けていきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の「ケアハラスメント防止10項目」を掲げ、言葉かけや対応に活かしている。又、常に振り返りができるように定期的に勉強会を設けている。	○	留意していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者の言葉を常に傾聴することを第一とし、いろいろな方向からその方が納得してくださるよう支援している。	○	継続し支援していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や体操など日課として声かけはしているが、強制はしていない。ご利用者のペースを優先できるような雰囲気作りに努めている。	○	利用者本位であることを心がけていく。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理容を招いていて、希望があれば利用していただいている。 また、近隣の理・美容室も気軽にご利用いただいている。	○	行き付けの店など、ご家族の協力も得ながら、ご利用者の希望がかなうようにしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備、食事、片付けを行い自ら生活していると実感し、一人ひとりの残存機能を有効に発揮できるように努めている。	○	今後も出来る限り参加して頂ける様な環境作りに留意していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物については、コーヒーが好きな方、冷たいものが好きな方など、状況に合わせて楽しめるようにしている。夏祭り等、行事の際は、適度に飲酒を楽しまれている。	○	晩酌を好まれる方がいる際には配慮していく。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	清潔を保つ自尊心への配慮を大切に考え支援している。排泄記録より状況を観察し、変化のある場合は、医師に相談し疾病への早期発見に努めている。	○	努めていく。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴への誘いは定期的に行い、個人の希望を尊重し、個人に合わせて入浴が楽しめるよう支援を行っている。	○	好みに応じた環境作りをしていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間よく眠れるように一日の生活リズムをつくり、適度に休息を入れ、活動できるように支援している。	○	睡眠は基本でありとても大事な事であるので今後も留意していく。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自発的にされていること、できる力・わかる力を大切に、グループホームでの日常が楽しいものになるよう支援している。 その人のアセスメントを活用し趣味や特技を生かしたアクティビティを行うなどの工夫をしている。	○	ひとりひとりが日々の生活に楽しみを持ち充実した一日一日をお過ごしいただける様支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の状態把握を行ったうえで、ご自分のお財布を持っていただいているが、多くの場合は各個人の買い物や、外出を行う体制で好みの品を買いに出かけたりしている。	○	ご家族の理解の下、ご自身で自由にできる金銭額を設定していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散策を日課として、自由に参加して頂いている。 食べ物や衣服の買い物希望などがあれば出来る限りお出かけいただける様支援している。	○	遠出や近隣への外出もまだまだ完全に自由に、とまではできていない。ご家族の協力も得ながら、ご利用者が窮屈な思いをせず、よりのびのびと過ごせる環境を作る。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日々の中で汲み取れる、ご本人の希望などをご家族にお伝えすることで、外出の機会を機会を作って頂けるように努めている。	○	個別に応じたケアも大切だと考えているので今後も個別に応じたケアをしていく。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの制限が無い限り、ご希望のある時に連絡したり、お手紙を書いたりできるよう支援している。 また、職員がご家族に連絡をとる際にお話しされるか伺うこともある。	○	ご希望時にはご本人様の意向を出来るだけ尊重していく。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご本人の馴染みの方々が来所された際は、居室でゆっくり過ごされたり、他入居者様も交えフロアで談話されたり、一緒にアクティビティに参加して頂いたりすることもある。	○	今後も来所しやすい環境作りをしていく。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ご利用者の様子を常に意識することで、拘束の必要の無いケアを実践している。また身体拘束の及ぼす影響を全職員が正しく理解できるよう、上司より説明をうけている。	○	安全に留意し支援を行う。 定期的に講習を開くなど、理解を深めたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員は理由なく鍵を掛け、自由を奪うことの弊害を理解している。しかし、安全のためにエレベーターの使用を制限させて頂いているため、ご家族に説明しご理解いただいている。	○	今後も、考え方を全職員が共有していけるよう努めて行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	お茶やアクティビティへのお誘いなどさりげなく、様子を伺わせて頂いたり、ご利用者の側に寄り添い一緒に過ごさせていただく事で日々の状態の変化など見守らせていただいている。	○	常に、周囲を意識し、事故のないよう努めたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の状態を見つつ、危険と判断されるものは安易に手に届く所には置いていない。必要な時はいつでも使えるように声を掛けていただくよう、ご本人と相談し、見守りをおこなっている。	○	ご利用者が不便だと感じないよう支援の方法に工夫していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個別の注意点はケアプランやカンファレンスのなかで情報共有している。また些細なことでも気付いたことがあれば、日誌・ヒヤリハットを活用し職員全員で注意すべきポイントを把握できるよう努めている。	○	今後も続けていく。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	現段階ではまだ一部の職員ではあるが、講習会などに参加している。また、全体ミーティングなどでその内容を共有できるよう発表を行っている。	○	全職員が緊急時対応の知識を身につけ、実践できるよう備えたい。また定期的に訓練を行える機会をつくりたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	現在、準備段階である。	○	早急に、体制を整えたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご利用者各々に起こり得るリスクについてご家族と話し合い、理解を深める。そのなかで職員は出来る限り、ご利用者がよりその方らしく生活できるよう支援していきたい。	○	ご利用者各々に起こり得るリスクについてご家族と話し合い、理解を深める。そのなかで職員は出来る限り、ご利用者がよりその方らしく生活できるよう支援していきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ご利用者の個人記録には、日々の変化や細かな気付きを記録し、職員全体で情報を共有できるよう申し送りを行い、経過観察を行っている。	○	医療連携体制をとっているので今後も活用し体調管理に努める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ご利用者ごとに処方箋がまとめた『お薬ファイル』がいつでも確認できる場所においてある。職員はご利用者の症状や、服薬の内容、注意点を理解できている。	○	常に確認し行っていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ご利用者の排便状況を記録をとることで把握し、各々にあった対策を検討している。	○	今後も食生活と適度な運動をこころがけ援助していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご利用者の状態に応じて誘導を行い、介助している。	○	歯科往診の際、定期的に皆様の検診をおこないたい。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調管理の一環として、月2回体重測定を行っている。水分量などのチェックは必要に応じて行い、一日2回お茶の時間を設けたり、その合間にもお奨めして水分補給をして頂いている。	○	今後も継続し見直しを行いながら栄養バランスを考えた献立作りをしていく。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策指導者研修に参加し、事業所内で研修を行うなどし感染症についての知識の周知を図っている。	○	感染症予防は日頃より行っており今後も同様に続けていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は原則当日に調達しており、台所・調理器具も菌の繁殖が考えられる箇所は毎晩消毒を行っている。	○	今後も食中毒の予防を徹底し衛生管理に努める。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階がデイサービス、2・3階がグループホームとなっていてエレベータを使用している為、開放的とまではいかないが、デイサービスの職員の方々にもお客様へのご案内を協力してもらい、不便のないようにしている。	○	限られたハードの中で、親しみやすく
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに掲示板を設け、外出行事の際の写真や、アクティビティで作成した季節の折り紙作品を掲示しています。	○	法人の協力を得ながら、季節感を大切に心地よい環境を提供していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・フロアと一間になっているが、ご利用者はおのおの適度な距離感で思い思い過ごされている様子が見受けられる。	○	フロア全体を一望できる現在の環境を活かしつつも、共有空間に”少しプライベート”な空間があってもいいのではと思う。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者はこれまで愛用されてきた家具などを持ち込まれている。また入所以降必要と思われるもの本人やご家族と相談しつつそろえている。	○	現在はもともと全室フローリングにベッドが設置されているが、ご利用者の希望により、床に布団敷きなど柔軟に対応したい。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>フロアに温・湿度計を設置し、ご利用者の意見を取り入れつつ空調管理を行なっている。</p>	○	<p>こまめな管理を行うようにしていく。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ベッドのサイドレールなど一見安全の為の用具が使用方法によっては危険を伴うことをよく熟知し、安全に使用していただけるよう気をつけている。 全室フローリングなので、立ち上がりが不安な場合は滑り止めマットを使用している。</p>	○	<p>身体機能にそぐう自立した生活を送っていただくためにフロアに手すりを設置するなど環境の整備を行いたい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人ひとり必要とされる支援はどのような点であるのかを見極め、出来る力をいかに引き出せるか話し合い、日々支援の原点としている。</p>	○	<p>お一人お一人「分かる力」や、混乱してしまう場面の把握により、自立した生活が続けられる環境作りを工夫していきたい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>花壇を利用し野菜を育て、手入れ・水遣り・収穫など楽しんでいただいた。</p>	○	<p>更に有効に活用する工夫を行っていきたい。</p>



## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設の構造上、地域の方がGHには訪問しにくい点があるが、ホームの行事には地域の方をお招きしたり、お手伝いいただいたりしている。近隣のコミュニティハウスを利用したり、近隣の公園へ出かけたりし、地域にこちらから馴染む努力をし、小さなお子さんとの触れ合いをもっている。夏にはお隣の町内から盆踊りにご招待頂き、近所の2施設の方との交流も持つことが出来ました。

また、ホーム内の行事も季節ごとの行事の充実を図るほか、内容も好みのものを選択して頂く方法を取るなど、個人の意思を尊重する支援に重点を置いています。